

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年1月6日

協議会名: 氷見市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 加越能バス(株) 運行系統名: ひみ番屋街経由氷見市民病院	JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院	1. 利用者の要望により平成26年5月1日から路線の一部を変更し、利用者の利便性の向上を図った。 2. 利用しやすいバスとなるよう努めるため利用状況の把握をするため、乗降調査を行った。	A 計画どおり事業は適正に実施されている	1. 目標数値 1便当たりの利用者数は、平日は2.0人、土曜日・日曜日・祝日は4.2人を目標とし、系統別の年間利用者数については、①ひみ番屋街経由氷見市民病院は1,500人、②ひみ番屋街は6,000人、③市街地循環は6,000人、当該バス路線による年間利用者数13,500人を目標とする。 (地区住民からの要望により平成26年5月1日から路線の一部を変更し、利用者の利便性の向上を図った。 見直しに当たっては、去る4月9日に開催した本協議会で26年度生活交通ネットワーク計画の変更の同意を得て、計画変更の認定申請を行ったところである。) 2. 結果と効果 今年度の実績は、1便当たりの利用者数は平日は4.0人、土曜日・日曜日・祝日は4.1人。系統別の年間利用者数については①ひみ番屋街経由氷見市民病院が3,151人、②ひみ番屋街が6,306人、③市街地循環が9,860人、当該バス路線による年間バス利用者数は19,317人となっており、1便当たりの利用者数については、平日の目標は大きく上回ったが土曜日・日曜日・祝日の目標は若干下回った。系統別の年間利用者数及び当該路線バスによる年間利用者数は目標数値に達している。 効果としては、市街地周辺の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保につながっている。	1. 今後の改善点 1便当たりの利用者数は、土曜日・日曜日・祝日が目標を下回ったが、原因としては、ひみ番屋街経由氷見市民病院の土曜日・日曜日・祝日の利用者数が少なかったためと考えられるため、今後ともさらに多くの市民の方に利用していただけるよう、広報誌やインターネット等を通じて広く周知を図るとともに、引き続き乗降調査を実施し、利用者からの声も併せて本計画に反映していく。 2. 今後の目標 現状では年間利用者数の目標を達成できたが、利用者数が目標数値を大幅に上回っているのは、「ひみ番屋街」への来場者効果があると考えられ、実績数値が少ないため今後の利用者数が掴みにくいことから、次年度の目標値は据え置きとする。 事業内容については、今後とも利用状況の調査を行い、その数値等を基に必要な改善を講じることで、高齢者等の移動手段の確保が必要な方が、さらに利用しやすいバス路線となるべく努めていきたい。
事業者名: 加越能バス(株) 運行系統名: ひみ番屋街	JR氷見駅～ひみ番屋街		A 計画どおり事業は適正に実施されている		
事業社名: 加越能バス(株) 運行系統名: 市街地循環	氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院		A 計画どおり事業は適正に実施されている		

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成27年1月6日

協議会名:	氷見市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>氷見市の人口は5.2万人(H22年国勢調査)であり、人口は減少傾向にある。老年人口比率は30.7%(人口51,726人、老年人口15,864)と高齢化が進展しており、中山間地域はもとより、市街地周辺においても高齢者世帯が急増するなど、その生活支援として交通手段の確保・維持が重要な課題となっている。</p> <p>市内の公共交通網は、JR氷見駅前を中心とする放射線状の路線となっており、中心市街地にある主要な公共施設及び商業施設を周遊する路線がなく、自家用車での移動が困難な高齢者及び障害者等の移動を十分にサポートできていない状況にある。</p> <p>そのため、中心市街地に点在している日常生活に必要な公共施設及び商業施設を周遊する「市街地周遊バス(3系統)」を運行し、市街地周辺の地域住民の交通手段を確保・維持するとともに、地域間幹線系統バスをはじめとした既存の路線バスと接続することで、市内の公共交通の利便性の向上を図る</p>